



白川容子参院議員と中谷浩一香川県委員長、岡田まなみ、藤沢やよいの両高松市議、田辺健一東部地区委員長らは、2日、高松市で新春宣伝をしました。

# 高松で新春宣伝 白川容子参院議員

白川氏は、国会での医療危機についての自身の初質問にふれ「国が責任を持ち制度を見直すことなしに改善はあり得ない」と指摘しました。来年度の予算案に

ついて、「ミサイルの配備よりも、物価高騰対策や暮らしを守る方向へ切り替えるべきだ」として、「消費税の減税や暮らしと命を守り抜く制度を充実させましよう。今年も皆さんと力を合わせ全力で頑張ります」と決意を述べました。中谷氏は、高松市に消費税率5%への減税や中小企業への



定価 月100円  
発行所  
民主香川社  
高松市藤塚町  
3丁目13-14  
☎(087)834-7311

# 高松市に予算要望 民主市政をきずく高松市連絡会

高松市の「民主市政をきずく高松市連絡会」と日本共産党市議団の岡田まなみ藤沢やよいの両市議は12月25日、11月に市に提出した「2026年度高松市予算編成と施策に対する要望」について終日、市の担当者と交渉しまし

騰で苦しむ市民の暮らしや福祉に優先して使ってほしい」と強調しました。岡田市議は「自衛隊による高松港の軍事利用を許せば市民が戦争に巻き込まれる。直ちに(高松港の特定

市の基本姿勢、教育、保育、住宅、公共交通、医療、社会保障、農業、防災対策など13の大項目125施策について要請。東條恵津子代表幹事は「税金は無駄な大型公共事業でなく、物価高



利用港湾指定の)撤回を求めしてほしい」と述べ、藤沢市議は「病院の看護師不足は切実。市としても支援をすべき」と指摘しました。



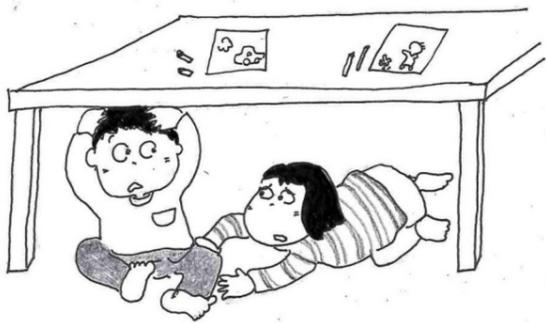
サザンカ

# 保育の今 (その二)

お屠蘇気分も覚めやらぬ1月6日午前10時過ぎ島根県東部を震源とする最大震度5の地震が発生しました。冬休み中の幼稚園や学校には園児や生徒はいませんが、お正月休み明けの保育園はまさに通常保育中でした。

島根県や鳥取県のいくつかの保育園に連絡をとるうち、災害時の対応が施設によって違っているのが気になりました。比較的震源地に近いY保育園では大きな揺れが収まった後、保護者に向けて「保育園では安全を確保していますので心配しないで。早めにお迎えに来られる方はいってください」と一斉ラインをしたそうです。給食室では、

市の幼稚園でもすぐのお迎え要請があり、行く運動場に敷いたブルーシートの上に子どもたちが座って待っていたとのこと。お迎えの遅い子はすこそこにいるのでしようか。「災害時安全に子どもを引き渡す」という対応の中にも子どもの人権のとらえ方が現れる気がしました。 姫田史



「保育の今」は、今月より月一回の連載となります。

# 投票が目前 三豊市議選 岩田市議の再選を必ず

岩田候補は、市民と協力し、消費税5%引き下げを求め意見書の採択や、18歳までの医療費の無料化、パートナーシップ宣誓制度、中学校体育館へのエアコン設置など多くの政策を実現し

手厚い支援、時給1500円以上へ賃上げ、東南アジアのような対話外交を求めていくと述べました。岡田氏は「私たちは子どもたちに平和を残す責任がある。戦争しない、みんなが幸せに生きられる日本を

ご一緒につくりましょう」と呼びかけました。藤沢氏は「憲法を暮らしに生かし、平和と民主主義、人権を守り、一人ひとりが大切にされる社会を築くため皆さんと力を合わせる」と訴えました。



岩田候補は、物価高に対する緊急提案として、財政調整基金31億円を活用し、

# 不破哲三

「不破哲三」と書いて「三哲破れず」と読む。かつて先輩議員からそう教わった。三哲とはマルクス、エンゲルス、レーニンの3人の哲学者だという。「日本のマルクス」と言った人もいた。不破さんの本名は、上田健二郎。ペンネームの件は、著作の「私の戦後六〇年」を読んで、それがまったのでたためたことを知った。むしろ不破さんは個人崇拜的な見地を厳しく戒め、こうした風潮に抗する探求によって、本来の社会主義がもつ豊かで明るい展望を再発掘してきた。

志位和夫議長は著作「Q&A いま『資本論』がおもしろい」のなかで不破さんの資本論研究が大いに役立ったと、その功績の大きさを紹介している。不破さんの研究方法は「その人の歴史のなかで物事を理解する」という独自のものだ。真理への苦闘の積み重ねがあつてこそ、生きた理論が生まれる。志位議長も資本論やインターナショナルでのマルクスの声をききながら、「赤本」を躍動感あふれるものにしてくれた。不破さんへ感謝し、合掌。(Z)